

# NEWSWAVE

~ 新しい時代を切り拓く実践経営情報紙 ~

発行

(株)本宮会計センター

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 2 0 0 - 2

TEL 0243-33-5535 FAX 0243-33-4467

## 16 年度の国民負担率は 43.9% の見通し 潜在的な国民負担率は 50.6% の見通し

国民負担率とは、国民所得に対する税金や社会保障料（年金・医療費などの保険料）の負担割合。財務省は、国民負担率が、2016 年度予算では 2015 年度見込みから 0.5 ポイント減の 43.9% で、7 年ぶりの低下となる見通しと発表した。緩やかな景気回復で国民所得が増える一方、労使折半の雇用保険料などが下がることが要因。16 年度見通しの内訳は、国税 15.9%、地方税 10.3% で租税負担率が 26.1%、社会保障負担率は 17.8%。

2015 年度見込みに比べ、租税負担率は 0.4 ポイント減（国税 0.2 ポイント減、地方税 0.1 ポイント減）、社会保障負担率は 0.1 ポイント減。社会保障負担は、この統計を開始した 1970 年以降では最高だった 15 年度（17.9%）をわずかに下回る。

国民負担率を諸外国（13 年実績）と比べた場合、アメリカ（32.5%）よりは高いが、フランス（67.6%）、スウェーデン（55.7%）、ドイツ（52.6%）、イギリス（46.5%）などよりは低い。

真の負担率は、財政赤字という形で将来世代へ先送りしている負担額を加える必要がある。財務省によると、2016 年度の国民所得（15 年度に比べ 11 万 7 千円増の 385 万 9 千円）に対する財政赤字の割合は、前年度から横ばいの 6.7% となる見通し。この結果、16 年度の国民負担率に財政赤字を加えた「潜在的な国民負担率」は、15 年度からは 0.5 ポイント減の 50.6% となる見通しだが、引き続き 5 割を超えている。

## WLB が両立しないから昇進魅力なし 女性の平均賃金 24 万円で過去最高

2 月の統計調査発表では、女性のキャリア形成や個人の生き方に大きく関係する「仕事と家庭の両立支援」（WLB）を進める政府と企業、働く女性たちにとって嬉しい数字が並んだ。

1 丁目・厚労省 昨年の賃金が平均で 30 万円余りと 2 年連続で増え、中でも女性は 24 万円余りと、過去最高。男女間の格差も男性を 100 とした場合、女性は 72.2 とこれまでで最も小さくなっている。さらに短時間勤務やパートで働く人の 1 時間当たりの賃金も 1059 円と過去最高。

2 丁目・総務省調査 8 年ぶりに「正社員」数が増加に転じた。さらに正社員の増加数が非正社員の増加数を上回るのは 21 年ぶり（男女計）だという。特に女性が大幅増加し、正社員 1042 万人（23 万人増）と非正規 1345 万人（13 万人増）といずれも前年比較で増加した。

女性の賃金が過去最高になった理由として 人手不足を背景に大企業から中小企業まで賃上げの傾向が進んだ 女性の正社員転換が増加 勤続年数が長く、女性管理職の比率が高くなった 女性の資格所持が増え専門職化が進むなど。

政府や経済界の課題は、賃金格差や消費が未だ低迷している点だ。総務省の家計調査では、2015 年の 2 人以上世帯の実収入は前年より 0.1% 増だが、世帯主収入は名目増減率で前年より 0.4% 減っている。配偶者収入の増加分などが世帯の収入をカバーしている状況という。



弊社では「MCS NEWS WAVE のメール配信」を促進しております！！

メールアドレスをご記入のうえ、0243-33-4467 までご返信ください

メールアドレス

@

FAX の印字状況により、文字が読み取りにくい時は確認の為、当社よりご連絡をする場合がございます。

ご不要の場合または、該当者がお出でにならない場合は、FAX を返信頂ければ次週より配信を停止致します。